

平成 27 年度 地域スポーツクラブマネジメントセミナー 第 3 回 実施報告 (12/12 実施)

「地域スポーツクラブと人材活用」

講師：松田 雅彦 氏 (大阪教育大学附属高等学校平野校舎 教諭)

今回のセミナーは、NPO 法人しまもとバンブークラブの運営にも携わっていらっしゃる大阪教育大学附属高等学校の松田先生にお越しいただき、「地域スポーツクラブと人材活用」をテーマに講義をしていただきました。

これまでの地域スポーツは単一種目・単一世代の「グループ (集団)」として多くの人々に親しまれてきましたが、地域スポーツクラブ (総合型地域スポーツクラブと同義) は種目や世代の垣根を越え、共通の目的に向けて多様な事業を展開する「チーム (組織)」の機能を有することから、新しいスポーツ振興システムとして捉えることができます。先生によると、現在の地域スポーツクラブにおいては、400～

500 人を目安として集団から組織への組織化が顕著に進み、機能的な運営組織としての体制が整えられていくというお話がされました。また、組織として存続していくための重要な 3 要素「共通目的」、「コミュニケーション」、「協働意欲 (貢献意欲)」を挙げられていました。その中で、協働意欲を高めるためにはクラブのミッションやビジョンといった共通の目的を明確にし、浸透させることがクラブ運営において人材活用を図る上では特に重要であるとお話されていました。さらに、学校組織を例に、役割分担の必要性を説き、地域スポーツクラブの運営を中心的に担う者たちの過重負担による疲弊を避けることも重要であるとお話されていました。



一方で、魅力のあるクラブづくり、自立したクラブづくりに向けて、本セミナーではワークが行われました。ワークは、「持続可能な総合型地域スポーツクラブの指針および評価指標」(日本体育協会)を用いて自クラブの評価をしてもらい、現状を把握した上で今後の課題や取り組むべき事柄を整理しました。このワークを通して PDCA サイクルに則った運営やスポーツが持つ地域社会醸成機能を念頭においた運営の重要性が説明されました。

最後に、公共サービスとしてスポーツ振興を中心的に担ってきた行政組織から、地域住民へと振興の主体が変化している現在では、住民同士で協力して課題解決に取り組む「共助」という考え方が必要であり、地域スポーツクラブにはその機能を有することが望ましいとお話をされていました。そのためには、営利目的のスポーツクラブのように「サービスをする人」と「サービスを受ける人」を分断するのではなく、会員のひとりひとりがサービスを「する人」でもあり「受ける人」でもある「一人二役」を担っているという自覚を持ち、積極的な運営参加が望ましいでしょう。これを実現するに、クラブはそのような会員が運営に参画できる機会や場を提供していくことが求められると考えられます。